

II. 結果の概要

II 結果の概要

1 まち全体の印象について

“東松山市に愛着を感じている”（「愛着がある」または「どちらかといえば愛着がある」）と回答した人は、全体では7割を超えています。「愛着がある」と回答した割合は、80歳以上で約5割と最も高く、30～39歳で2割半ばと最も低くなっています。

“住みよいと感じている”（「住みよい」または「どちらかといえば住みよい」）と回答した人は、全体の7割以上となっています。さらに、住みよさを愛着度別でみると、愛着度が高いほど「住みよい」と回答する割合が高く、反対に愛着度が低いほど「住みにくい」とする割合が高くなっています。

定住意向では「現在のところに住み続けたい」と回答した人は、全体では6割半ばとなっています。また、定住意向を愛着度別でみると愛着度が上がるほど、住みよさ別でみると住みよさが上がるほど高くなっています。

東松山市の印象について“よい”（「よい」または「どちらかといえばよい」）と感じている割合が高い項目は<人柄・土地柄><自然環境><歴史と伝統><交通の利便性><買物などの日常生活の利便性><教育・文化・スポーツ施設><医療・福祉施設><総合的に見て>となっています。一方“わるい”（「わるい」または「どちらかといえばわるい」）が“よい”を上回っている項目は<働く場><道路や公園等の生活の基盤施設><活気とにぎわい><街並みの美しさ><市の発展性><都市としての個性や魅力>となっています。

2 子どもの分野について

子育て環境の整備が“整っている”（「整っている」と「どちらかといえば整っている」）と回答した人は、3割半ばとなっています。また、就学前（0～6歳）の子と同居している回答者、小・中学生と同居している回答者とも、“整っている”は5割を超えています。

一方、子育て環境の整備が“整っていない”（「どちらかといえば整っていない」と「整っていない」）と回答した人は2割弱となっています。その理由としては、「公園や児童館など子どもが安心して遊べる場が少ない」「小児医療体制が不十分」「子どもを連れた人や妊産婦が使いやすい施設の整備が不十分」などが多くなっています。

3 健康福祉の分野について

最初にかかる医療機関を「決めている」と回答した人は、全体の7割を超えています。また、最初にかかる医療機関の種類は「近所の医院・診療所・クリニック」が8割弱と最も高くなっています。

健康づくりのために心がけていることは「食事に気をつける」と回答した人が6割半ばと高くなっており、次いで「十分な睡眠・休養をとり、規則正しい生活をする」「たばこを吸わない」「散歩や運動などをする」の順に高くなっています。

感染症対策に「取り組んでいる」と回答した人は、9割半ばを占めています。取り組み内容として「手洗い、手指消毒をする」が9割半ばと最も高く、次いで「咳エチケット、マスクの着用をする」「多人数での会食は避ける」の順に高くなっています。性別でみると全般的に女性が男性に比べ高く、特に「こまめに換気する」は女性（58.7%）が男性（42.1%）を16.6ポイント、上回っています。

4 環境について

“環境に配慮した生活を心がけている”（「心がけている」または「どちらかといえば心がけている」）と回答した人は、8割半ばと高くなっています。具体的に行っている環境活動は「決められたとおりにごみの分別を徹底している」が最も高く、「マイバッグを利用したり、過剰な包装を断ったりするなどごみの減量化に努めている」「部屋の電気やテレビのスイッチはこまめに消している」などが続いています。

環境問題では、『すでに深刻な問題である』については、「地球温暖化」が約7割と最も高く、「ごみの増加や不法投棄」「身近な緑や農地の減少」などが続いています。経年比較では、継続して最も高い「地球温暖化」が、令和2年度調査結果をさらに上回り、過去最高の割合となっています。また、「身近な生き物の減少」では令和2年度調査から3.7ポイント増加しています。

『重点的に取り組んでいく必要がある』については「地球温暖化」が5割弱で最も高く、「ごみの増加や不法投棄」「省エネや新エネルギー」などが続いています。令和2年度調査と比較すると、「省エネや新エネルギー」は6.2ポイント増加しています。

省エネ設備や太陽光などの創エネ設備の利用状況について、「利用している」は「建物の断熱化」が最も高く、「利用していないが今後利用したい」は「電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池（水素）自動車」が最も高く、次いで「家庭用蓄電池」となっています。

5 生活基盤の分野について

防災情報の取得方法は「テレビ」と回答した人が8割、「緊急速報メール」が8割弱、「防災行政無線」が5割弱となっています。避難行動を求められたら主に行うことでは「市の指定緊急避難所・指定避難所に避難する」が6割弱、「自宅が安全なため避難しない」が2割弱、「車で安全な場所に避難する（車中避難）」が約1割となっています。災害に備えて行っていることでは「保存飲料水・食料品を準備している」と回答した人は5割を超え、「家族や親族との連絡方法を決めている」が3割を超え、「非常用持ち出し袋を用意している」が約3割となっています。

主に利用している交通手段は「自家用車（自分で運転）」が7割半ばと最も高く、次いで「徒歩」が3割弱、「自家用車（家族や知人が運転）」が約2割となっています。

インターネットの利用状況は「スマートフォン（携帯電話）で利用している」が7割半ばと最も高く、次いで「パソコンで利用している」が3割半ばとなっています。

6 商業の活性化について

商品の購入場所については「市内の大型店・チェーン店」と回答した人は最も高く、〈食料品〉では約9割、〈衣服・服飾品〉では6割を超え、〈家具・家電〉では約7割となっています。

日用品の買い物での利便性について「不便を感じている」が2割弱、「不便は感じていない」が8割弱となっています。「不便を感じている」理由として「近くにお店がない」が7割を超え最も高く、次いで「バスなどの公共交通機関の停留所が遠い、本数が少ない」「家族等の協力がいない」と買い物ができない」の順となっています。

7 協働によるまちづくりについて

地域活動への参加状況は“参加している”（「よく参加している」または「ときどき参加している」）が4割を超え、“参加していない”（「あまり参加していない」または「参加したことはない」）

が6割弱となっています。性別でみると“参加している”は男性(42.2%)が女性(39.6%)を2.6ポイント上回っています。年代別でみると“参加している”は年代が高くなるほど割合が高くなる傾向にあり、60歳代以降の年代で4割以上となっています。

ボランティア活動への参加について「現在活動している」と回答した人は、1割となっています。活動している分野は「スポーツ」が3割弱で最も高く、「保健・医療・福祉」が2割半ば、「子どもの健全育成」が2割を超えています。

8 人権意識について

人権の意識については「高齢者」と回答した人は4割半ば、「障害者」、「子ども」が4割弱となっています。「女性」で女性(35.2%)が男性(25.0%)を10.2ポイント上回っています。

男女の地位の平等感については、〈家庭生活〉では「平等である」と回答した人は4割半ば、〈学校教育の場〉では4割を超えています。〈政治の場〉では“男性優遇と感じている”(「男性が優遇されている」または「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した人が7割弱と高くなっています。

『男は仕事、女は家庭』という考え方には“反対である”(「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した人は4割半ばで、“賛成である”(「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した人を上回っていますが、年代別でみると80歳以上では“賛成である”(19.9%)と“反対である”(22.9%)のポイント差が3.0ポイントと最も小さくなっています。

9 生涯学習・生涯スポーツについて

学習や趣味などの活動状況としては「スポーツや野外活動」が2割半ば、「知識・教養や仕事に必要な技能、資格取得など」が1割半ばとなっています。また「特に行っていない」は4割を超えています。

生涯学習等の活動を行っている目的では「健康・体力づくりをする」が3割半ば、「趣味を豊かにする」「生きがいを高める」が3割弱となっています。令和2年度調査と比較すると、「将来の生活(老後の生活など)に役立てる」は3.6ポイント、「生きがいを高める」は3.0ポイント増加しています。

運動(スポーツなど)を行う頻度では、週1回以上行っている“習慣的に運動を行っている”と回答した人は5割半ばとなっています。一方「行わなかった」と回答した人は2割弱となっています。職業別でみると、“習慣的に運動を行っている”は学生、無職、家事・育児・介護に専門の順となっています。

日本スリーデーマーチの参加状況は「参加したことがある(1~10回)」の割合が5割弱と最も高く、次いで「参加したことはない」が4割を超えています。参加した理由としては「学校行事だったから」が4割を超えて最も高く、次いで「市の代表的なイベントだから」「家族や友人・知人と交流するため」の順となっています。

10 公共施設について

公共施設(市の建物)を維持するためにすべきことについては、“実施すべき”(「実施すべき」または「どちらかといえば実施すべき」と感じている割合が高い項目はくあまり利用されていない施設を1つにまとめたり、なくしたりする>が5割半ばとなっています。“実施すべきでない”

（「実施すべきでない」または「どちらかといえば実施すべきでない」）が“実施すべき”を上回っている項目は、施設の開館時間を短くするなどして、サービスをさげて施設にかかるお金を節約する、ほかの行政サービスをさげて節約し、施設にかかるお金にあてる、となっています。

減らしていくべき公共施設（市の建物）については「利用する人が少ない施設」「近くに同じような施設（民間施設を含む）があり、十分代替えが可能な施設」と回答した人が3割弱となっています。性別でみると「利用する人がいつも同じで、たくさんの人が利用していない施設」で男性（29.5%）が女性（27.8%）を1.7ポイント上回っています。

11 市政情報について

知りたいと思う市政情報は「健康・医療」と回答した人は4割半ばとなっています。また、「福祉・介護」と回答した人は4割弱となっており、女性（39.5%）が男性（36.1%）を3.4ポイント上回っています。市政情報の入手方法は「広報ひがしまつやま」と回答した人が8割弱、「市からのお知らせや回覧」は4割半ばと高くなっています。平成25年度調査以降、「東松山市ホームページ」「メール配信サービス（東松山いんふおメール）」「Twitter（ツイッター）」は増加傾向にあります。一方「広報ひがしまつやま」「市からのお知らせや回覧」「市役所などの公共施設にあるポスター・チラシ」は減少傾向にあります。

市政情報の取得状況では“得られている”（「得られている」または「ある程度得られている」）と回答した人は5割を超えています。

広報紙「広報ひがしまつやま」の閲読状況では“読んでいる”（「よく読んでいる」または「時々読んでいる」）と回答した人は7割半ばとなっています。また、“読んでいる”は年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向にあります。

広報紙「広報ひがしまつやま」の入手方法では「自治会等からの配布」が9割半ばと大半を占めています。

広報紙「広報ひがしまつやま」を読まない理由については、「読むのが面倒」が3割弱と最も高く、次いで「市政に関心がない」「役立つ記事がない」「内容がおもしろくない」の順となっています。

12 行政運営について

市の職員については、<礼儀正しい><言葉づかいがよい><わかりやすく説明してくれる><話をきちんと聞いてくれる>などで肯定的な評価が高くなっています。

東松山市の将来像について、どんなまちになってほしいかでは、「快適に暮らせる安全のまち（防災、防犯、都市基盤整備）」が5割弱と最も高く、次いで「誰もが自分らしく輝ける健康長寿のまち（健康づくり、保健・医療、地域福祉、社会保障、高齢者福祉、障害者福祉）」が4割半ば、「子どもたちが健やかに成長する学びのまち（子育て支援、学校教育の充実）」が4割弱となっています。

東松山市でよくなってきた事業は「市民病院の充実」が2割弱と最も高く、次いで「子育てしやすい環境づくり」「河川・下水道の整備」の順となっています。

重点的に取り組むべき事業は「子育てしやすい環境づくり」が2割弱と最も高く、次いで「保健・医療体制の充実」「河川・下水道の整備」の順となっています。

13 地域資源について

東松山市の地域資源については、回答した過半数以上に当たる 335 人が「やきとり（やきとん、かしら）」をあげています。そのほかにも「日本スリーデーマーチ」（278 件）、「箭弓稲荷神社」（193 件）、「ぼたん」（152 件）などがあげられています。

